

患者さんと共に進化続ける 曾山医院開院30周年に寄せて



30周年に当たり待合サインのリニューアルと多目的トイレを設置しました。これは患者さんアンケートのご意見を実現したものです。患者さんと共に進化続ける・そして少しでも長く患者さんに寄り添うが30周年の目標です。

当初外科医として開院し、学会専門医を更新しながら、学校医・園医として子供達の健診・診療を行うことで、むしろ癒しや無限の力に気づかされました。認定産業医として地元企業の産業保健に従事することは生活習慣病の管理のみならずメンタルヘルス・ストレスチェック・仕事と治療の両立支援・職場復帰支援・禁煙外来などとてもやりがいのあるものでした。

介護保険法の平成12年開始に伴い介護支援専門員資格を取得し主任介護支援専門員や認知症サポート医としても活動するようになりました。在宅医療・緩和ケア・医療介護連携・病院との連携・人生会議（ACP）・発達障害等を経験しその人らしく生きる大切さを学びました。

患者さんと出会いの中で三世代に及ぶ家庭医としての役割を担うこともありました。1人の患者さんの胃・大腸・乳腺等の重複がんや親子の胃がんなどを経験し、その責任の重さに身の引き

早いもので当院は平成4年4月1日に開院してから30周年を迎えました。

これまでの地域の皆様のご支援に感謝申し上げます。そして女房やスタッフの協力に感謝します。

締まる思いがしました。自分では経験できない人生を体験した思いです。

83歳で肺がんの宣告に戸惑いながらも手術を受け入れ家族に支えられて前向きに生きる人。残された限られた寿命を全うする生命力。病気を機会に規則正しい生活や服薬の習慣を得た人。苦しみをバネにして生きぬく力・夫婦愛・家族愛・そして豊かな人生に私達は勇気づけられてきました。

私自身はA型肝炎や腹腔鏡下胆摘で数日間の入院経験があり患者さんの立場で診察室でお話しています。最近ではコロナ禍でも室内でもできる運動の話をよくします。皆さん自分に合ったどこでもエクササイズを実践されていることに感心します。

人生には楽しいことだけでなく苦しいこと、思い通りにいかないことも多くあります。コロナ禍もその1つです。発熱外来を終えて院内にもどるとスタッフが院内を消毒してくれている日常があります。『コロナ禍の前進』スタッフや患者さんと協力しながら対応していきたいと思います。

当院では、これからもかかりつけ医療機関として地域で生きる患者さんに必要で最適な医療を提供するため患者さんと共に進化を続けたいと思います。

ふれあい曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科 <http://soyama-clinic.com/>

志筑1391-9
Tel:62-5566

2022年5月号
(第138号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



発熱外来はこちらのQRコードからご参照ください。

